

「古賀邦雄河川文庫」を訪問しました

機関誌『水の文化』の連載「水の文化書誌」執筆者で、水の文化センターのアドバイザーを務める古賀邦雄さんが久留米大学に寄贈した河川、湖沼、水の書籍およそ1万2000冊は、同大学の御井図書館内に「古賀邦雄河川文庫」として所蔵されています。

このほど編集部は御井図書館を訪問し、「古賀邦雄河川文庫」を見学させていただきました。蔵書はまだ整理中とのことでしたが、その質と量を目の当たりにし、圧倒される思いがしました。



久留米大学御井図書館の外観



蔵書の整理が進む「古賀邦雄河川文庫」

今年も生活意識調査を実施し、「水の日」に向けてHPで公開します！

毎年恒例の「水にかかわる生活意識調査」を6月に実施しました。今年で27回目となります。

節水状況や水道水の得点評価など、水にかかわる生活実態を継続的に調べており、今回はさらに、世界の水問題に対する意識についても調査しました。

結果をまとめたレポートは8月1日「水の日」に合わせてホームページで公開予定ですのでぜひ活用ください。

<https://www.mizu.gr.jp/chousa/>



水の文化センターのメールマガジンに登録しませんか？

新キャラクターがセンター活動をお知らせ！



水の文化センターのメールマガジンオリジナルキャラクターが誕生しました！

オリジナルキャラクターが楽しくセンター活動をご紹介しますメールマガジン。皆さん、ぜひホームページからご登録ください。お待ちしております！



※HPのお問い合わせフォームの内容に、「メールマガ登録希望」とご記入ください。

<https://www2.mizkangroup.co.jp/customer/group/mizu.html>



5月22日の世界運河会議にセンター長出席

5月22日（土）、「世界運河会議 NAGOYA2020」の2日目に行なわれたセッション3「市民・企業が支える水辺マネジメント」に、センター長がオンラインで登壇しました！

半田運河を中心としたミツカングループとしての水辺での活動内容に関して、紹介いたしました。



機関誌『水の文化』制作について

ミツカン水の文化センターで発行しております機関誌『水の文化』68号につきましては、感染防止対策を徹底しつつ取材活動を行ないました。

取材先の皆さまには、顔写真撮影に関してマスクを外していただくなどのご協力をお願いいたしました。この場をお借りして御礼申し上げます。

また、ご好評いただいております連載「食の風土記」「Go! Go! 109水系」はやむを得ず休載いたしました。

69号以降も感染防止対策を徹底したうえで、機関誌『水の文化』を制作してまいります。

水の文化 Information

■「水の文化」に関する情報をお寄せください

本誌「水の文化」では、今後も引き続き「人と水のかかわり」に焦点をあてた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根ざした調査や研究がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

■ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください

<https://www.mizu.gr.jp/>

■水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページからPDFファイルとしてダウンロードできるほか、冊子をご希望の方はホームページの「最新号のお申し込みボタン」からお申し込みいただけます。どうぞご利用ください。

■「水にかかわる生活意識調査」ホームページで公開中

25年以上にわたり、ほぼ同じ内容で日常生活と水とのかかわりや意識、水と文化に関する生活意識調査を実施しています。結果はすべて公開していますので、ぜひご利用ください。

皆さまの感想を お待ちしております！

『水の文化』68号について、アンケートにご協力ください。
今後の機関誌をよりよくしていくための参考にさせていただきます。

◆アンケートへの回答はこちらから。

<https://www.mizu.gr.jp/form68.html>



※アンケート用紙をお持ちの方は、FAXまたはメールにて
下記へご返信いただく形でも結構です。

FAX：03-6784-3056

メールアドレス：mizubun@mizu.gr.jp

編集後記

幼い頃、あまり身体が丈夫ではなく、入退院を繰り返していた時期がありました。その時にお見舞いでいただいた桃が美味しくて、以来、大好物になったことを思い出します。果実には他の食べ物にはない人を癒してくれる視覚的、味覚的な魅力を感じるだけでなく、この先、世界中の多くの人が文化的に豊かに生きていく上で、大きな役割を果たしてくれるのではないかとという期待を抱きます。(五)

中村哲さんが、死の谷「ガンベリ砂漠」の灌漑に成功した際に、最初に栽培したのが水分補給の商品作物となるスイカであった。いくつかの国の種の生産高と味を比較した中で、日本種は糖度が高く、手ごろな大きさで、最も人気だったそうだ。本号では、日本の果実が持つ大きな可能性に気づかせてもらった。少々高くてもその価値を自覚して、たくさん食べていきたい。(松)

我が家では離乳食に始まり幼稚園のお弁当、夕食後のデザートまで、娘がいちばん果物を食べているかもしれません。本書36頁のグラフを見ていて、一日当たりの果実摂取量がまさに我が家のようなと思いました。経済循環や環境問題などを頭の隅で考えながら、仕事帰りに自分で食べるための果物を買って帰ろうと思います。(飯)

若い時、インドカレー屋で甘口のカレーを注文したら、文字通りの甘いカレーが出てきた。あまりの甘さに思わず塩を振ったのが失敗。思えば、最近はいかに塩を振ることがなくなってきた。同時に食べる機会も減った気がする。あまり意識してこなかったが、デザートやスイーツの選択肢が増えたからか。もともと美味しい果実をたくさん食べてもいいことづくめなんて、幸せだ。(力)

房総半島でピワが出回りはじめたと聞き、カメラを携えて出かけた。海沿いの道路脇で鈴なりに実をつけた野生のピワの木を見つけて撮影していると、清掃作業の人が「誰も食べないから好きなんだけ持って行っていいよ」と。あんまりおいしくなさそうだったので辞退したが、中川たまさんの取材後に後悔した。料理に使うという手もあったのだ！来年の今ごろ、あのピワをいただきに行こう。(前)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化 第68号

ホームページアドレス

<https://www.mizu.gr.jp/>

発行日

2021年(令和3年)7月初版1刷

企画協力 (氏名50音順)

沖 大幹 東京大学大学院工学系研究科教授
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会
陣内秀信 法政大学名誉教授
鳥越皓之 大手前大学学長

制作

浦本五郎
松本裕佳
久保田瑞季
青木広実
小林夕夏
久保悦史
飯野真奈実

編集製作

前川太一郎 編集
中野公力 デザイン・撮影
蔵田 豊 デザイン

執筆

佐々木 聖 (pp.9-11, pp.16-19, pp.24-31)
手塚ひとみ (pp.20-23, pp.32-35)
開 洋美 (pp.6-8)
前川太一郎 (pp.12-15)

撮影

大平正美 (pp.16-19)
葛西亜理沙 (p.6)
川本聖哉 (pp.24-31)
藤牧徹也 (pp.9-10, pp.32-35, pp.44-49)

印刷

中整総合印刷株式会社

発行

ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中整ビル

株式会社 Mizkan Partners

Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578